
魔法少女リリカルなのは 最悪・最低・最弱の転生者

taku846

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 最悪・最低・最弱の転生者

【Nコード】

N5535BA

【作者名】

takug46

【あらすじ】

「魔法少女リリカルなのは」の世界に666人の人間が転生した。主人公はその666人目の転生者。手に入れた力は「めだかボックス」のオールフィクションともう一つの力。手にした力を使い、主人公が託された使命はテンプレをぶっ壊すこと。悪の転生者は何を思い、何を成すのか？ 魔法少女リリカルなのは 最悪・最低・最弱の転生者、始まります。

ブログ（前書き）

初めましてtakus46です。初投稿ですので文が拙いこともありますが、お付き合いのほど、よろしくおねがいます。

プロローグ

..... 此処はどこだ？

地平線まで白い世界。そんな場所に俺は浮かんでいるみたいだ。

..... これは、あれか？ 転生ってやつか？

「そのとーーりー！！」

そう思ったら、目の前に金髪碧眼のよく神様が着てるような、肩から布を羽織った男が現れた。

「やあやあ、君は随分落ち着いてるね。中には喚き散らす人もいたのにさ」

「..... ここはどこだ？ 何故、俺はここにいる？」

「可愛げのない人間だね。ふむ、その質問に答えよう！」

「ここは俗に言う天国ってところさ！ 何故かと言われれば、僕が暇つぶしに事故などで死んでしまった10代の人間たちを666人まで転生させて、遊ばうと思ってね！ 君はその最後の一人、666人目さ！」

「随分縁起が悪いな。..... それで？ どんな世界に転生するんだ？ 暇つぶしって言うくらいだから、普通の世界じゃないんだろっ？」

「ふむ、その通りさ！ 転生する世界は、魔法少女リリカルなのは

の世界！　ちなみに君以外の665人もその世界に転生させているよ！」

「……………。で？　ただ転生させるだけじゃ、つまらないだろ？　ほかにまだ何かあるんじゃないのか？」

「君はよく頭が回るね？　まさにその通り！　魔法の世界にただの人間が言ってもモブキャラ止まり。だから君たち転生者には特別な力。強大な魔力や異質な力。はたまた他のアニメ作品の力などをプレゼント！」

「だけど、ただ君の要望に応えるだけじゃあ面白くない！　だからここから先は運任せ！　ルーレットで能力を決めてもらうよ！」

そう神が言つと、神の横にルーレットが現れた。そのルーレットは黒の背景に赤字というとても趣味の悪いものだった。

「趣味が悪いってのは酷いな。このルーレットは君の心の具現化だよ？　これだけ君の心が黒いつてことだね！」

「……………心を読めるのか。心が黒いか……………、神なんだから俺の生前にやってきた行いについて知っているんだろ？」

「うん！　分かっているだけで、殺人の数は41人！　でも実際は事故死に見せかけて殺したのが63人！　合わせて104人も殺したんだね！　僕の転生に引っかけがなかったら、間違いなく無限地獄行きだったね！」

「ふん、地獄行きは覚悟して殺した。第一、後悔してない」

「ふふふ！　さすが666人目だね！　666人目は最悪の人間を

転生させようと思っていたから、まさに最高の人選だったね！」

「……………、それで？ ルーレットは何回出来るんだ？ 一回か？」

「そうだね！ 時間も押してるから、ちゃちゃっと済ましちゃうか！」

「ルーレットは、2回！ だけど666人目の君には僕の方で一つだけ、特別な力を授けよう！ 1回目のルーレットは容姿！ 2回目のルーレットは能力が決まるよ！」

そう神が言っと、ルーレットを回しだす。物凄い勢いで回るルーレット。文字なんて全く見えない。

「……………」

ダーツを投げる。勢いよく投げられたダーツの矢は、「トンッ」という音をたて突き刺さった。

「う~~~~んと、容姿は『めだかボックス、球磨川楔』だね！ それじゃあ2回目、どうぞ！」

投げる。同じように矢は突き刺さる。

「おおお！ 能力は同じく『めだかボックス、オールフィクション大嘘憑き』！ 凄いな！ もととなる容姿がアニメや漫画のキャラだったら、そのキャラの能力になる確率は上がるけど、同じになるのは珍しい！ もともと、アニメや漫画のキャラになるのも珍しいのに！」

「なかなか、いい能力じゃないか。ジャンプは読んでいたから知ってるぜ、この能力は」

「それは良かった！　じゃあ、もう1つの666人目の特別な力について教えよう！」

「その能力は、殺した相手の能力を奪い取る力！　めだかボックス風に言うのなら、死者奪取^{デットシーフ}ってところかな？」

「そんな力を俺に与えてどうする気だ？　なにを俺にさせたい？」

「あははははは！　言っただでしょう？　これは僕の遊びさ！　僕はお決まりのハッピーエンドも好きだけど、それ以上に予定調和やテンプレが崩れたのを見るのが大好きなんだ！　だからこそその君さ！　筋書きの決まった物語を君はどれだけグチャグチャにできるかな！　凄く楽しみだ！」

「お前のしたいことは分かった。いいだろう協力しよう。お前の期待に応えてみようじゃないか」

「ふふふふふ！　ありがとう！　君ならそういつてくれると思っただよ！　あ、あと君以外の転生者の中にはまさにチートって思える人間もいるんだ！　能力を決めたルーレットを3回や5回もやった人間もいるからね！　注意してね！」

「……………、OKだ。そろそろあつちの世界に送ってくれ」

「ふふふふふふ！　それじゃあ、おさらいだ！」

「君が今から行くのは『魔法少女リリカルなのは』の世界！　転生後の姿は『めだかボックス』、球磨川楔^{オールドイクシオン}、能力は『めだかボックス』、大嘘憑き^{デットシーフ}、そして666人目特典の『死者奪取^{デットシーフ}』！」

「君の役割は物語を面白くすること！　ただそれだけだ！　それじゃあ、健闘を祈る！」

神がそう言うと、目が霞だした。どうやら、ここはテンプレのよう
に穴に落ちたりはしないようだ。
最後に見えたのは、神の子供のような無邪気な笑顔。俺はこれから
の生活を考え、ゆっくりと眠りについた。

プロローグ（後書き）

*誤字がありましたら、ご指摘ください。

〈能力説明〉

大嘘憑き「オールフィクション」

現実を虚構する能力。

すべてを無かった事にする能力。

一度無かった事にした物・事象はもとに戻す事が出来ない。
力加減を間違えると、世界すら無かった事にする事が出来る。

めだかボックス、球磨川楔の能力（過負荷）

死者奪取「デットシーフ」

殺した相手の「特別」を奪うことのできる能力。

「殺す」の定義は、生命か精神のどちらかを潰すこと。

一つの死体から奪うことのできる「特別」は一つだけ。

また、奪うことの出来るのは、主人公が認識できた「特別」のみ。

例えば、殺した奴が最後まで使わなかった能力などは奪えない。

一回は直接、見る、聞く、感じなければ奪うことはできない。

on/offの機能付き

第一話　く誕生そして捨てられたく

俺、いや僕が生まれて3年が過ぎた。

僕は生まれてすぐに捨てられて、孤児院に入るようになった。
捨てられた原因は、神の転生特典の大嘘憑きだオルフィクションと言うことが明らかだ。

ここで、僕の第一の能力大嘘憑きオルフィクションについて、少し説明をしようと思う。

この能力、いや、正確には過負荷マイナスは現実を虚構に、つまり、すべてを無かったことにすることが出来る能力だ。

実に強力な能力だ。ただ、この能力、過負荷マイナスのくくりにある能力はすべて一概にある弊害がある。

それは、すべての人々に嫌われると言うこと。過負荷マイナスは敗者のための能力。敗者ゆえの能力スキルと言えるだろう。

だから僕は、生まれつきの敗者。勝負には絶対に勝つことはできず、体力や学力等のパラメーターもほぼ最低ランクの代物だ。

それに、この能力を生まれ持って生まれたこの僕は、もの凄く気持ちの悪い気配を持っている。

普通の人間なら間違はなく、嫌悪し吐き気を覚えるほどの気配だ。

それゆえに捨てられた。捨てられたこの僕を見つけたのが、孤児院の院長じゃなっかたら、間違はなくそのまま死んでいただろう。ど

うやら院長は、自分の気持ちではなく赤子を放っては置けないと言う使命感だけで、僕を拾ったようだ。

『ふわゝ、眠い……………』

孤児院の朝は早い。6時に起床し、6時30分から朝食だ。

よく孤児院の朝食は戦争、なんてことを耳にするがまさにその通りだ。

「ちょっと押さないでよ！」

「あ、それ俺のだぞ！」

「兄ちゃん取りすぎだぞ！」

「お前もキープし過ぎだ、バカ！」

「それ寄せ！」

「あ、取らないでよ！」

『はあゝ』

戦争は勝負。だから僕は勝てない。僕の朝食は毎日、食パン1枚にベーコンが数切れ。運が良かったら卵が手に入るかどうかのレベルだ。

僕の1日は、子供部屋で大体寝て過ごすだけ。能力はまだ1度も使っていない。

ただ、頭の中でイメージトレーニングぐらいかな？

まだ子供だから、出来ることが少ない。だから暇な日々が続いている。

死んだのが18だったから、子供と一緒に遊ぶのは論外だし。あゝ、暇だ……………。

暇を持て余しながら、僕は眠りの世界に逃げるのだった。

~~~~~

—— 懐かしい夢を見た。

—— それは俺の生前の記憶だった。

俺は裕福な家庭に生まれた。父は弁護士。母は社長でとてもエリート意識が高い家だった。

—— 特別になりなさい！

それが母の口癖だった。

幼少の頃から勉強づけの日々。窓から見える同年代くらいの男の子の姿を見ると、とても羨ましかった。

—— そして何時からだろう？

—— 特別が憎くなったのは……………



しかも転生の特典で、大好きな「めだかボックス」の球磨川先輩の過負荷と容姿をゲットした。

「めだかボックス」では球磨川先輩はエリートの抹殺、つまり特別の抹殺をやるうとして夢なかばで潰えた。だがこの世界で俺、いや「僕」がその夢が変わりに叶えてあげますよ。

特別を零にして、普通だけの……。弱者だけの世界を作る。それが俺の使命だ。

その過程をせいぜい雲の上から眺めて、笑っててくださいよ？ 神？

## 第一話　く誕生そして捨てられたく（後書き）

\*誤字脱字がありましたら報告お願いします。

主人公の生前。そして夢の話でした。

ちなみに転生後の名前は普通に球磨川楔ちゃんです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5535ba/>

---

魔法少女リリカルなのは 最悪・最低・最弱の転生者

2012年1月15日04時52分発行